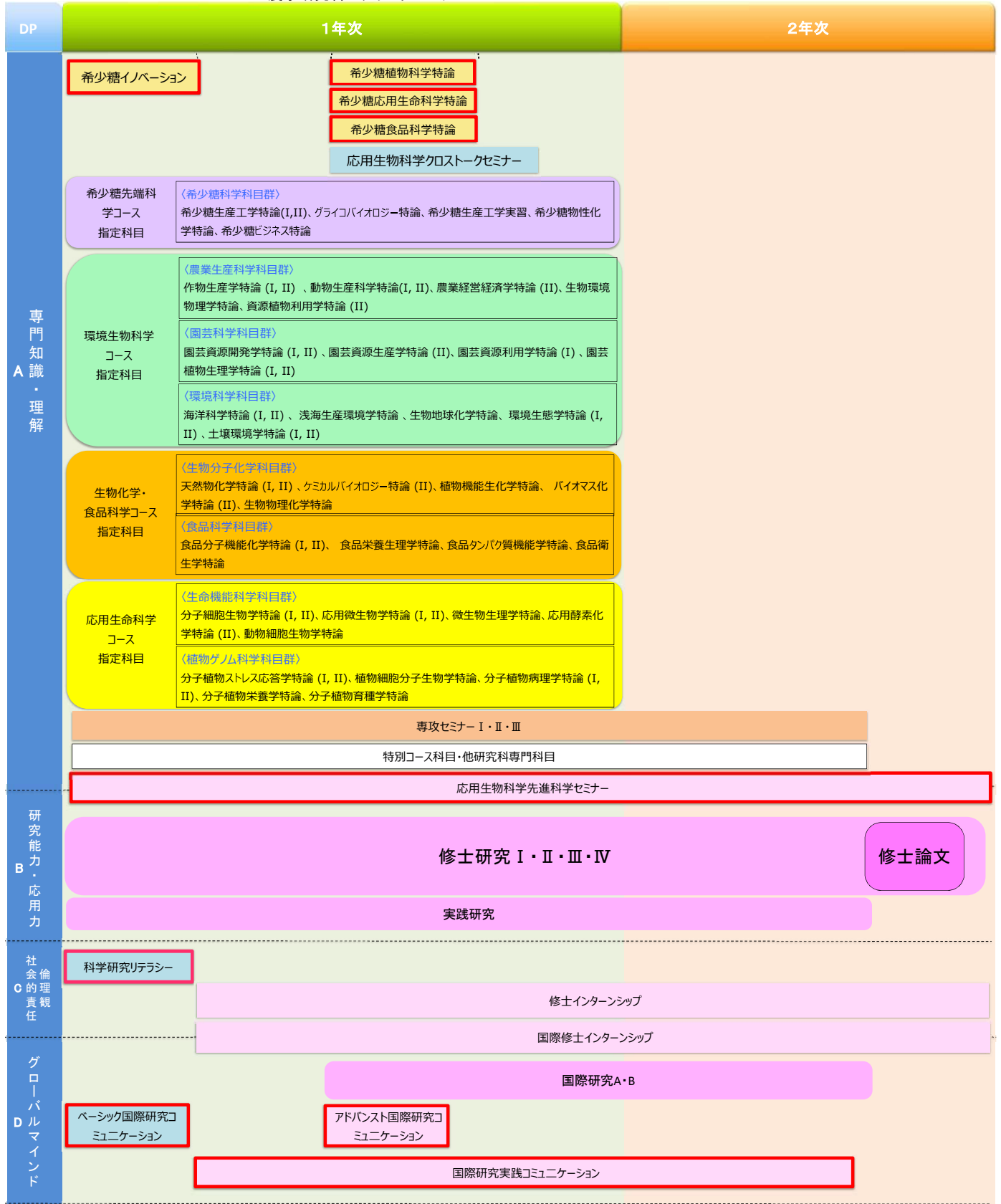


農学研究科カリキュラムマップ



修士論文

修士研究 I・II・III・IV

実践研究

修士インターンシップ

国際修士インターンシップ

国際研究A・B

科学研究リテラシー

ベーシック国際研究コミュニケーション

アドバンス国際研究コミュニケーション

国際研究実践コミュニケーション

基盤科目

基礎科目

希少糖共通科目

展開科目

応用科目

希少糖先端科学コース指定科目

環境生物科学コース指定科目

生物化学・食品科学コース指定科目

応用生命科学コース指定科目

専攻セミナー

特別コース科目・他研究科専門

統合科目

研究科目

大学院教養科目

ディプロマ・ポリシーの各項目の達成は、以下に示す体系的教育をもって実現します。

A 専門知識・理解

1年次に開講される「希少糖イノベーション」を含む希少糖共通科目により、希少糖を題材として研究開発マインドと希少糖科学の先端研究成果を身につけます。さらに1年次第1から第4クォーターに配置された4コースの専門科目により、応用生物学に関する幅広い専門知識を理解・修得します。さらに展開科目として1年次から2年次にかけて開講される「応用生物学先進科学セミナー」により、高度職業人として活躍するために必要な幅広い専門の知識を身につけます。

B 研究能力・応用力

1年次の「応用生物学クロストークセミナー」及び、1、2年次を通して研究室単位で行われる「専攻セミナー」により発表能力、議論構築能力を身につけます。さらに2年間にわたる複数の教員の指導による「修士研究」において、自らの専門に関わる課題を設定し、その解決のための作業仮説の設定とその検証方法の探索・決定、分析・解析を経て一定の結論を導き、これらを修士論文に取りまとめることを通じて研究能力・専門応用能力を培います。

C 倫理観・社会的責任

1年次第1クォーターに開講される「科学研究リテラシー」において、研究倫理、安全教育、情報リテラシー、知財など修士研究を遂行しかつ高度職業人として社会で活躍する上で基本となる知識を身につけます。

D グローバルマインド

1年次第1クォーターに開講される「ベーシック国際研究コミュニケーション」で英語によるプレゼンテーションスキルを身につけます。その上で「国際修士インターンシップ」、「アドバンスト国際研究コミュニケーション」「国際研究実践コミュニケーション」などにより、より高度な英語・プレゼンテーション能力及び国際的な視野を培います。また在学中に留学を志向する学生は「国際研究」を履修して、海外での研究調査等に取り組み、研究実践的グローバルマインドを身につけます。さらにダブルディグリープログラム、ジョイントマスタープログラムに参加することによって、グローバルマインドを身につけます。